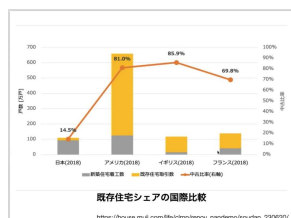


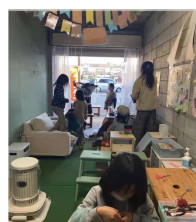
2024年度チャレンジ講座(第16回)を実施しました

2月19日(水曜日)、第16回チャレンジ講座を実施しました。今回は理工学部 柴田建先生に「21世紀のアーバンデザイン～住まいのリノベーション、まちのリノベーション」^{*1}と題して講義をしていただきました。



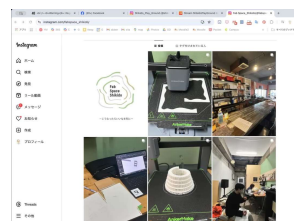
日本は新築志向が強いので、大半が新築住宅ですが、海外は100年、200年前の建物を大事にしています。しかし、今の若い世代は親世代との価値観が違ってきて、自分たちで自分の空間を作ようになってきています。地方は空き家が多く、これを生かせばいい暮らしができる、ということでリノベーション住宅が増えてきています。

福岡県宗像市の「日の里ニュータウン」では、古くなった建物のうち1棟だけは壊さずに残しリノベーションして、地域の人がみんなでどう使うかを考え、サードプレイス(お気に入りの場所)として運営に取り組んでいます^{*2}。ここでは、日曜日でも子どもも大人も沢山いて賑わっています。また、若者が増えてきていて、地域の活性化につながっています。



また、大分市の敷戸団地で大学生が2022年にオープンした「しきどスペース」は、当初女子学生2名で始めました。子どもの遊びの活動場所と活用してきましたが、仲間をどんどん集めて建築士会も関わるようになりました。若者の孤独化が問題視されている中、若者の居場所作りになっています。

居住のための建物が、リノベーションを通して、今は人と人をつなぐコミュニティになっています。建築は人を集め、人を生かす力があるものだ実感しました。最後に先生と参加した高校生の間で質疑応答がなされ、充実した講座となりました。



今回は9校78名の高校生がオンラインで参加しました。感想の一部を紹介します。

- 建築というと日本では特に新築を思い浮かべがちだが、リノベーションを通して新しい人の居場所を作るという考えがとても興味を惹かれた。
- とても貴重な講義をありがとうございました。私は理系を選択していますが、地域創生や心理学などにも興味があり進路について悩んでいました。しかし今回、リノベーションには建築の技術だけでなくアイデアや心理学なども大切だということを学んだことで、自分の将来したいことはこういうことだったんだと視野が広がり衝撃を受けました。講義が楽しくてとてもワクワクして聞いていました。自分の進路についても参考になりました。本日は本当にありがとうございました。

※今回の記事(講義概要)は、杵築高校が担当しました。

*1 当初の予定より改題。

*2 講師画面の背景画像の建物。